

九州大学法学部ニュース : 第30号

<https://hdl.handle.net/2324/4763169>

出版情報 : 法学部ニュース. 30, pp.1-, 2021-05-21. Kyushu University Faculty of Law
バージョン :
権利関係 :



2021年5月21日 九州大学法学部広報委員会

2020年度 学位記授与式（卒業式）

2021年3月24日、2020年度の九州大学の学位記授与式が執り行われました。

卒業者は法学部211名、修了者は法学府43名(秋学期含む)です。



西原 圭亮

(法学部4年)



あこがれだった九州大学の門を叩いてから、早くも4年が経ち、はるか遠くにあったはずの「卒業」の日がやってきました。

私の4年間を振り返ってみると、本当に恵まれた4年間であったと感じております。

まずクラスの友人との出会いに恵まれました。休み時間にたわいもない話をしたり、ともに酒を交わし騒いだり、ご飯や旅行に行ったり、試験前にはギリギリまで対策しあったり……。挙げればキリがありませんが、どれもかけがえのない思い出です。大学生活で出会った友人達とのつながりは、社会に出てからも大切にしていきたいと思っております。

学業面でも非常に恵まれていました。漠然と進路の幅が広いという理由で法学部の門を叩いた私ですが、大学で初めて触れた法律学は、答えのない問題に対して立ち向かっていく面白さを教えてくれました。特に大学3年からの情報法ゼミでは先端技術が持つ法的課題について、様々な利害関係者を考慮しながら、どのように制度設計をすればよいかを議論することができました。ゼミでの東京研修旅行では、大手IT企業、ベンチャー企業、弁護士、官庁等様々な立場の方のお話を聞くことができ、このようなことを議論するうえで非

常に良い経験になりました。

また地域の皆様にもお世話になりました。アルバイト先の皆様は、愛知県からやってきた僕に対しても暖かく接して下さいました。地域のおいしいごはんを教えて下さったり、一緒にBBQをして下さったりと、糸島の自然の豊かさを存分に味わわせて下さいました。

こんなにも充実した大学生活を送れた私は、本当に幸福だったと思います。4年間お世話になりました皆様、そして何より私の大学生活を金銭面・精神面で支えて下さった両親に、心から感謝申し上げたいと思います。

社会に出てからも大学で学んだこと、そして学ぶことの面白さを忘れずに、一生懸命研鑽を積んでいきたいと思っております。そしていつか、お世話になりました皆様に、何らかの恩返しができると思っています。

本当にありがとうございました。



退職にあたって

(村上 裕章 教授)



2021(令和3)年3月末をもって、私は九州大学法学部を退職いたしました。

私は、1978(昭和53)年、九州大学法学部に入学しました。同大学大学院、北海道大学等を経て、2008(平成20)年、母校に戻って参りました。それ以来、本学に13年間在職したことになります。

法学部では、主として、行政法の授業を担当しました。また、毎年高学年の演習を担当し、ゼミ論文集を刊行してきました。ゼミ生の皆さんの努力により、非常に高いレベルを維持できたと思っております。

この間、大学移転など、大変なこともありました。しかし、同僚の先生方、学生の皆さん、とりわけ事務職員の皆様のご支援により、とても快適な大学生活を送ることができました。心より感謝しております。

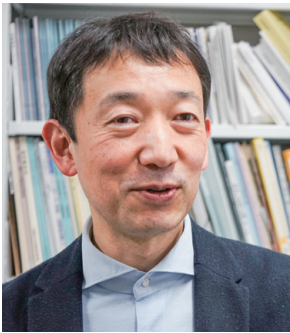
2021年4月からは、東京の成城大学で勤務することになりました。福岡からは離れてしまいましたが、一OBとして、微力ながら九大法学部に貢献できればと考えております。



入江秀晃先生インタビュー

紛争管理論を専門とされている、入江秀晃先生にインタビューを行いました。コロナ禍での授業やゼミ、さらには最近始められたYouTubeについてのお話を伺いました。

山口 佳乃 (法学部 1年)



■コロナ禍で授業やゼミはどのように変化しましたか。(先生の授業の特徴)

法学部はレクチャー形式の授業が一般的ですが、私の授業では、シナリオを踏まえた調停などのロールプレイ(役割演技)を中心としています。それをオンラインで軌道にのせるのはとても大変でしたね。

2020年度後期の紛争管理論の授業では、数年前から話題になっている反転授業に挑戦してみました。反転授業とは、知識のインプットを動画などを見て各自で行い、アウトプットをワークショップを通して皆で行うというもので、伝統的な授業の形を反転させたものです。コロナがもしなかったとしても、このような授業を行いたいと以前から考えていました。インプットは一人でもできるため、アウトプットをほかの人と行うことでいい時間の使い方ができるのでは、と考えています。

■紛争管理論はどのような学問ですか。

紛争管理論という言葉聞いたとき、国際紛争などをイメージする方が多いと思いますが、私が主に取り扱っているのは、離婚調停やお金の問題など、普通の市民と市民の紛争です。日本には、鎌倉時代の和与や江戸時代の内済など、話し合いによる紛争解決という歴史が脈々とあります。日本の紛争解決システムを考えると、調停は避けては通れないのです。しかし、これは日本の法学部ではマイナーな扱いを受けています。

このような調停をロールプレイで体験することによって、コミュニケーションの練習になります。そのため例えば、サークル内での争いをどう解決するかなど、日常生活に役立つスキルも身につきます。また、相手との対応の仕方のトレーニングにもなるので就職活動にも役に立ちます。コミュニケーションが苦手な人にも、ぜひ挑戦してほしい学問ですね。

■YouTubeを始められたきっかけは何ですか。

コロナの影響もありますが、きっかけの一つはゼミ生からの勧めです。どのようにゼミの宣伝をしようかゼミ生に聞いたところ、YouTubeもありなのではとなりました。紛争管理論は一見わかりにくい分野で、かつ私は1、2年生の授業を担当していないので、たいてい少人数ゼミなんです。YouTubeでは、紛争管理論や私のおすすめの本の紹介などをしています。時間もエネルギーもかかりますが、情報発信のツールとして今後も利用していきたいと考えています。

■学生にメッセージをお願いします。

「勉強」というものには、基本的な答えがあります。法学部は、大学に入ってから勉強することが多くあって、研究よりも勉強がのしかかるイメージがあると思います。勉強はもちろん大事ですが、それと共に研究への意識をもっと持ってほしいです。研究には、答えがありません。研究とは、答えがない領域に自分なりの道筋をつけていくことなんです。研究で一番大事なのは、どういう問いに自分が取り組むべきなのかを特定することです。正解がない自分ならではの問いを見つける、そしてそれに対する研究成果を書きものにする、それが研究の一連のプロセスですね。

今の法学部には、手間もエネルギーもかかる研究に意味を見出せない学生が多いように感じます。学問は研究が主で、勉強は研究のための手段だと私は思っています。大学は研究できる場所であり、大学生は研究できる年齢です。九州大学法学部には素晴らしい研究者がたくさんおられるので、研究するのにとてもいい場所です。このように捉えると、大学に対する認識も変わってくるのではないのでしょうか。

刑法演習

(井上 宜裕 教授)

このゼミは、刑法の重要論点を組み合わせたオリジナルの問題を素材に、各回、数名に報告してもらい、それを手がかりに参加者全員で討論を行うという形式を取っています。本ゼミの特徴は、①オリジナル問題の難易度と②徹底した議論です。私が作成する問題は、時として、司法試験の問題より難易度が高く、本ゼミの問題を見た後に司法試験の過去問を見ると、簡単に見えることもしばしばです。これも、基本書等を読んだだけではなかなか辿り着けない高み、即ち、刑法の全体像の把握を目指すのが故です。また、このゼミは、議論が続いている限り、たとえ終了のチャイムが鳴っても終わりません。疑問点は残ったままにせず、皆で納得がいくまで議論します。

もっとも、このゼミには、法曹志望以外の人もたくさんいます。例年、民間企業、公務員、ロースクール志望者がバランスよく受講しています。ゼミのOB・OGの進路は、裁判官、検察官、弁護士、警察官、公務員、企業の法務部、銀行、食品会社等、多種多様です。

例年であれば、ゼミ合宿、施設見学で見聞を深め、飲み会で大いに盛り上がるのですが、2020年度は、どれもできずじまいでした。コロナウィルスの収束を望むばかりです。



古川 櫻子 (法学部 3年)

刑法に関心があったことから井上先生の刑法演習を受講することを決めた私は、毎週、ゼミの時間が来るのをとても楽しみにしていました。というのも、井上ゼミでは毎週充実した議論が行われており、自分一人で学習しているだけでは得られなかったような視点や考え方を学ぶことができるからです。議論では、あらかじめ用意してきた質問はもちろん、議論の中で新たに浮かんだ疑問点についても検討していきます。また、問題の本筋とは離れた質問や明確な答えを求めていないような素朴な疑問にも議論はおよび、参加者それぞれの意見を幅広く聴くことができます。このように徹底した議論が毎週行われることから、五限目終了のチャイムが鳴っても議論が続くこともしばしばありますが、毎回の議論で深い理解を得ることができ、学べることはとても多いです。

残念ながら、2020年度は新型コロナウイルスの影響で、ゼミ合宿や飲み会等のイベントが開催されませんでした。2021年度は、コロナウィルスが収束し、より充実したゼミの活動ができるようになってほしいと思います。

YLPインターンシップ

上原 朔也 (法学部 2年)

2021年2月15日から26日まで、法学府Young Leaders Program(YLP)の法律事務所インターンシップが行われました。私たちGlobal Vantage(GV) Programの学生と、国際コースの大学院生がそれぞれ8名ずつ、通訳として参加しました。

このインターンシップは、海外で実務経験を持つYLPの留学生が、福岡市内の法律事務所研修を行うもので、毎年GVの学生らが通訳として同行します。

私は、インドネシアからの留学生の通訳として、赤坂にある弁護士事務所に配置されました。私の主な役割は、依頼人との面談や電話での法律相談の内容を、留学生に英語で通訳し、質問があればそれを日本語で先生に伝えることでした。授業で聞いたことがある論点でも、実際にはさらに複雑で、それを英語で説明することはとても苦労しました。しかし、弁護士実務を間近で観察できただけでなく、関連する英単語を調べ、それをその場で使うという実践的な練習ができました。

このインターンシップの最大の特徴は、YLPの留学生らがそれぞれの国で実務経験があるということです。インターン中に関わった様々な事件について、彼らの知識や経験から、海外との相違点や共通点について法律家同士が議論し合う中に同席することは、貴重な経験でした。印象的だったのは、交通事故にかかる賠償請求についてです。日本ではよく裁判になる事案ですが、インドネシアではこのような裁判はほとんどなく、当事者間の交渉によって解決されると言います。このように、日本と他国の実務のあり方を比較する中で、弁護士の先生にとっても、留学生からの意見や疑問は新鮮なものが多かったようで、先生、留学生、そ



して私たち通訳にとっても多くの学びがありました。

2週間の通訳を通して、日本の弁護士実務を目の前で観察し、他国の実務と比較しながら、実務家の留学生と弁護士の先生と議論し、同時にそれを英語で通訳するという、非常に密度の濃い経験ができました。この経験を糧に、今後も英語と法律の勉強に努めます。

My name is Nasarudin from Indonesia. As a YLP student, I had the opportunity to go through a two-week internship at Abe&Arichi Law Firm. I have to say this was an enriching experience for me.

I am very enjoying it. I have learned a lot, and that my future studies and career will benefit from this internship.

I want to say many thanks to Kyushu University, Fukuoka Bar Association, and Abe&Arichi Law Firm because this program gives me the chance to see how a different legal system works outside my jurisdiction.

Everyone in the firm and Bar Association is always nice, friendly and available for explanations! Following this program is memorable moment, and I am delighted and lucky to be part of this program. (編集済み)

司法試験合格体験記(2020年度)

(田中 大地)

私は、九州大学法学部から九州大学法科大学院に進学し、令和2年度司法試験に合格しました。学部入学当初から弁護士志望でしたが、本腰入れて司法試験を見据えた勉強を始めたのは、法科大学院入試を控えた学部4年生に入ってからでした。

学部時代に勉強したことは、大学院入学以降の勉強の基礎としては役に立ちました。もっとも、法科大学院では先輩方が司法試験により重点を置いた勉強方法を教えてくれたり、論文の添削をして下さるので、答案の書き方や時間配分等、実践的なことの多くは法科大学院に入ってから学んだように思います。合格したからこそ言えることですが、かつてのように司法試験は毎日十何時間も、何年間も勉強し続けた努力の人か、あるいは天才と呼ばれるような人だけが受かる試験ではなくなり、適切な方向の努力をある程度積み上げた人なら大方受かる試験です。適切な努力を積み上げるために、大学院で先輩方から指導を受けることができたというのは、少なくとも自分にとっては司法試験に合格するに当たって大きく寄与していたと思います。

司法試験を受けようとする方へ伝えたいのは、司法試験は受ければ必ず合格するというほど簡単なものではありませんが、上に書いた通り、選ばれし者だけが通るといふ試験でもないということです。試験を受けるまでが一番長いと思いますが、適度にガス抜きしつつでかまいませんので、頑張ってください。



司法試験合格体験記(2020年度)

(上野 建)

私は、早期卒業制度を利用して九州大学法学部を3年で卒業し、法科大学院既修者コースを2年で修了して、本年度の司法試験に合格することができました。

私は、学部時代においては大学の講義を中心に勉強をしていました。一方で、法科大学院においては、講義に加えて、同期とゼミを組んで答案を添削しあったり、合格した先輩方から添削を受けたりするなどしながら、インプットとアウトプットを自分にとって適切なバランスで行っていました。また、司法試験においては法的三段論法などの型を守って論述することが大前提となりますから、その練習を学部・大学院を通して続けてきたことが合格につながったのではないかと思います。

法科大学院に進んで司法試験の合格を目指す学部生の皆さんには、学部生のうちは、司法試験のための勉強だけでなく、司法試験に直接は必要になりそうにない勉強(法律の勉強に限りません。)やサークル活動、アルバイトなど様々なことに取り組みられることをおすすめします。法科大学院ではいやでも司法試験のための勉強をすることになりますし、法科大学院で懸命に必要な勉強をすれば司法試験に合格することはできると思います。裏を返せば、法科大学院に進んで司法試験に合格するためには、法科大学院在学中は上記のようなことに取り組みにくいといえます。したがって、学部時代には司法試験だけにとらわれない生活を送っていただきたいと思います。

卒業生座談会

■ 司会

田川 優 : 民間就職 (NHK)
廣瀬 梨早 : 進学 (九州大学大学院法学府
国際コース LL.M.⁽¹⁾)

■ ゲスト

小原 壮平 : 民間就職 (NEC・法務部)
安河内大貴 : 公務員 (福岡県庁)
永石耕太郎 : ロースクール (九州大学法科大学院)
松本さやか : ロースクール (九州大学法科大学院)

本日は様々な進路を選んだ卒業生のみなさんに集まってもらいました。4年間のお互いの大学生活を振り返りつつ、最後に後輩や進路に悩む高校生へアドバイスを送ってほしいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

● 大学時代の思い出

(田川) 皆さんの大学時代の思い出を教えてください。

(小原) 国際取引法ゼミ⁽²⁾で大学対抗交渉コンペティションに出場したことです。2か月ほど模擬交渉・仲裁の準備をして、11月に上智大学である全国大会に参加しました。ほぼそれしか思い出がないと言ってもいいくらい集中してやりました(笑)。

(田川) 国取ゼミの記事は以前の法学部ニュースにも取りあげられているので、気になる人はチェックしてみてください! 松本さんは何かある?

(松本) 国立シンガポール大学 (NUS) に半年間留学していたのが良い思い出です。留学1年前の2年生の夏から準備をしました。学内選考や奨学金の選考が大変でしたが、周りの友人と情報交換をしたり、留学課の方々にお世話になったりしながら無事留学できました。

(田川) 留学は入学時から考えていたんですか?

(松本) 入学時はヨーロッパに留学したいと思っていました。でも大学1年時に第二外国語で中国語を履修して、アジアの大学に興味を持ちました。そこでアジアでレベルの高い学びを得られるNUSに留学を決めました。

(廣瀬) 私の場合は、GVプログラム⁽³⁾で参加したミュンヘン大学との合同シンポジウムですね。まだ法学の専門的知識のない1年時から、先輩と協力して家族法のプレゼンテーションをしたことが、2年生以降の学習のモチベーションになりました。GVのみならずドイツに行ったのは楽しい思い出(笑)。

(永石) 僕は一番はダンスかな。ATPというサークルでダンスにドハマリしました。深夜練習とかもあるけど、皆で一つのショーケースに向かって頑張るのが楽しかった。

(田川) サークル活動とロースクールに向けた勉強の両立は大変だった?

(永石) 両立できていたのかな(笑)。1、2年生の時は毎日1人でダンスの練習をしていたから勉強のことを考えてなかったです。2年の頭ごろから、友達が司法試験を目指し出したことに影響を受けて興味を持ち始めました。ただなかなかやる気が出なくて2年時に8単位くらい落としただけけど…。3年になったら勉強で追いつくのとダンスを頑張るので忙しかったし、サークルではリーダーを務めたけど、最終的には合格できたのでよかった。終わってから思うのは、地道にやるのが絶対いい(笑)。

(田川) そんな中でも合格できた秘訣は?

(永石) 3年時の七戸ゼミで鍛えられたことかな。頑張る人たちの中に上手く入っていけたら成長する機会があると思う。努力していて、司法試験に関する情報も豊富な人たちと繋がり、引っ張られたのは大きかったです。

● 九大法学部でよかったこと

(田川) 九大の法学部でよかったことは何ですか?

(小原) またゼミの話になっちゃうけど(笑)、九大法学部はサブゼミという形で2つのゼミに参加できるので、僕は3年の時はサブゼミをとって2つ、4年時はさらにオブザーバーで参加して3つを履修しました。学びの幅を広げることができるのは良いところです。

(安河内) 施設の充実もありますね。きれいで開放的な図書館や少人数で使える学習室があり、公務員試験に向けて学校でたくさん勉強ができました。学びの環境が整っていて、やる気さえあればたくさん勉強できます。

(松本) 留学関連では、法学部のカリキュラムなら計画的に単位を取れば卒業を遅らせずに半年間留学できます。また全学間の交換留学はもちろん、法学部同士の部局間留学の枠も豊富なので、海外で法学が学べる機会もありますね。

(廣瀬) 協定校から九大に来ている留学生もたくさんいて、そのサポーター活動や言語交換プログラムなどもあります。だから留学しなくても国際交流ができるし、留学の前段階としてそういった制度を活用するのもいいですね。

● 進路について

(田川) みなさん色々な進路に踏み出されると聞いています。詳しく聞かせてもらえますか?

(廣瀬) 私は大学院まで行って専門性を高めたくて、春から九大LL.M.に進学します。私や松本の所属するGVプログラムは、LL.M.に入れる日本人学生を育成する目的で設立された、法学部の国際コースなので、親も入学当初から院進の可能性を想定し応援してくれていて、4年春と遅めの進路決定ながらスムーズに決めることができました。同じくGVで別の進路を選んださやはどう?

(松本) 九大のロースクールに進学します。私もGVなので、当初はLL.M.進学や民間就職を考えながら学生生活を送っていました。でも3年後期でシンガポールに留学した時に、現地でビジネスをされている日本人の弁護士の方と出会って、それまでは全く考えてなかった法曹の道に進みたいと思うようになり、4年の6月から本格的に勉強しました。大学生活の中の出来事がきっかけで進路を決められることもあるので、絶対にこれ!とフォーカスしすぎず、色々な経験をすることで固めていけたらいいんじゃないかなと思います。

(田川) 進学組、ありがとうございます! 続いて民間就職の人に聞いてみましょうか。

(小原) はい、IT企業の法務部に行きます。情報法ゼミでITに関わる法律の先端的な分野を扱い、研修旅行でYahoo!やGoogle

などの現場に訪問する中でIT企業法務部に興味を持ちました。ただ割と学部からの法務は難しく、数社落ちてしまったのですが、何とか希望通りに就職できました。

(田川) 法務部を受けるってことはやっぱり学部での法律の勉強は大事なんですか？

(小原) 授業をとっていなかったのが会社法の勉強は独学で必死にやりました(笑)。あと国際取引法ゼミで交渉・仲裁を鍛えられていたので、その経験が評価されたのかもかもしれないな。

(松本) 就職活動ってどれくらいの時期から？

(小原) インターンも含めると3年夏頃からが多いかなあ。

(田川) 最後に安河内君はどうですか？

(安河内) 公務員になります。民間も考えたけど、自分のやりたい仕事は公務員でしかできないと思い志望しました。試験には法律科目が多く出題されるし、入庁後も法律を読む仕事が多くあるので、法学の学びが就活でも社会人になっても生きてくると思いますね。生協の公務員講座などバックアップ体制が充実していたり、同じように公務員を目指す仲間がいたりするのは良い環境だと思います。

●コロナの就職活動への影響

(田川) 昨年は就活にもコロナの影響があったと思います。良かったところ、大変だったところ、教えてもらえますか？

(小原) 僕の場合、全ての面接がオンラインだったことが一番の影響ですね。良かったところとしては、画面越しなのであまり緊張しない(笑)。デメリットとしては、相手の空気感が掴みにくく会話がかみ合わない時がたまにありました。上手く面接をこなすために、同じく就活をしている友達と毎日のようにオンラインで面接練習をし合っていました。これはコロナ世代ならではかも。

(田川) 自分もしてたから分かります。こんな時期だからこそオンラインで繋いで励まし合えたのは良かったよね。例年は東京などの企業を受けていると、福岡との往復で時間やお金の面で大変だと思うんだけど、オンラインになってそれが無くなったのは良かったところじゃないかな。

(小原) それは確かにそう。地方の学生としては本当にありがたかったと思います。

(松本) 公務員って国家系と地方系があるって聞いたんだけど、詳しく教えてほしいです。

(安河内) そうですね、まず国家公務員は国家目線でダイナミックな仕事ができます。加えて、経済産業省や文部科学省、裁判所事務官、国税専門官、参議院事務局まで幅広い仕事の中から自分の専門にしたい分野を選ぶことができます。逆に地方公務員は、自分の地元や好きな土地で働けます。仕事は配属次第なので幅広いです。僕は地方系なんですけど、コロナの影響で国家系の説明会が少なくなってしまったのは残念でした。国家系は省庁などによって仕事が違うのでそこはもっと知りたかったですね。反対にコロナのお陰で試験が延期になった関係で、日程に余裕ができたのは良かったです。

●後輩たちへのメッセージ

(廣瀬) 最後に法学部の後輩や高校生に向けて、メッセージがあれば！

(小原) そうですね、僕が法学部で一番楽しかったのがゼミ活動でした。講義に加えて3年からのゼミで、自分の学びの幅を広げ深めてほしいし、良い仲間を見つけてほしい。それと学部卒でも法務部には行けるので、ぜひ九大法学部から法務を目指してもらえたらと思います。

(永石) 成績は大事です。特に進学となると成績が重要になります。後回しにすると試験で挽回しないっていう焦りから勉強が空回りしてしまうこともあるので、1、2年のうちからしっかり知識を身に付けておいて損はありません。

(安河内) 勉強はもちろんだけど、旅や遊びも大学生活の醍醐味だと思うので、自分の知見を広げるためにも、大学の長い夏休みや春休みを活用してほしいですね。

(松本) 大学生って学生でいられる最後の4年間で自由に使える時間がたくさんあると思うので、遊びもそうだし人脈を広げるのも大切だと思うし、そこから自分の将来に繋がる気づきもあるはずなので、ためらわずに色々なことに挑戦してほしいです。何かやりたいと思った時に全力で取り組みれば道は拓けると思うので、いっぱい経験を積んで好きな進路に進んでほしいです。

(田川) ここに来ている人たちからもわかりますが、選択肢を絞らないことは大切なことだと思います。色々な経験をして吸収して、その中でやりたいことを見つけて、そしてそこに向かって努力していく。様々なことに挑戦できる機会や応援してくれる先生方、それぞれの目標に向けて頑張っている仲間がいるのはとても恵まれていると思うので、精一杯頑張ってください！

【補足】

(1)「LL.M.」とは？：

Master of Laws (法学修士課程)。九州大学大学院法学府国際コースは、日本で初めて開設され全国的にも珍しい、授業や論文執筆をすべて英語で行うLL.M.コース。国際経済ビジネス法を中心に、国際社会における多様な法的問題に対応できる能力を養う機会を提供する。

(参照： <http://www.law.kyushu-u.ac.jp/general/news/009/6-7.pdf>)

(2)ゼミってなに？：

少人数ゼミナール、ここでは特に3、4年次の「高年次ゼミ(演習)」。

(参照： <http://www.law.kyushu-u.ac.jp/prospective/pamphlet/2021/2-3.pdf>)

(3)「GVプログラム」とは？：

Global Vantage Program。日本人学生を対象に、グローバル・ローヤーの育成を目指して、英語による教育を重視した学士課程国際プログラム。

(参照： <http://www.law.kyushu-u.ac.jp/prospective/pamphlet/2021/22-23.pdf>)



卒業生 211名(うち女子77) / 進学 30(13)

企業 76(18) 公務員 65(37) その他 40(9)

右欄は女子で内数
() 早期卒業者
※9月卒業者も含む

| 企 業 | | |
|--------------------------|---|---|
| Cyber Buzz | 1 | 1 |
| ECL エージェンシー | 1 | |
| LITALICO | 1 | 1 |
| MS&AD システムズ | 1 | |
| NTTドコモ | 1 | |
| PwC コンサルティング | 1 | |
| Scoville | 1 | |
| TOTO | 1 | |
| Works Human Intelligence | 1 | |
| アウトソーシングテクノロジー | 1 | |
| 麻生 | 1 | 1 |
| アドバンスト・メディア | 1 | |
| アフェクス | 1 | |
| インフォコム | 1 | |
| ウエディングパーク | 1 | 1 |
| オービック | 1 | |
| オルビス | 1 | |
| キーエンス | 1 | |
| キャストイングロード | 1 | 1 |
| 九州電力 | 6 | 1 |
| 九州旅客鉄道 | 1 | |
| キョードー西日本 | 1 | |
| コカコーラボトラーズジャパン | 1 | |
| 菰田法律事務所 | 1 | 1 |
| コロニアワークス | 1 | |
| ザイマックス | 1 | |
| 信金中央金庫 | 1 | |
| 住友生命保険 | 1 | |
| セブンイレブン・ジャパン | 1 | |
| 総合警備保障 (ALSOK) | 1 | |
| 大和証券 | 1 | |
| 中電工 | 1 | |
| ナフコ | 1 | 1 |
| 西日本シティ銀行 | 1 | |
| 西日本鉄道 | 3 | 1 |
| 西日本電信電話 | 2 | 1 |
| 日本 M&A センター | 1 | |
| 日本政策金融公庫 | 1 | |
| 日本製鉄 | 1 | 1 |

| | | |
|----------------|----|----|
| 日本生命保険 | 1 | |
| 日本電気 | 1 | |
| 日本放送協会 (NHK) | 1 | |
| 野村證券 | 1 | 1 |
| 福岡銀行 | 3 | 1 |
| 福岡国際空港 | 1 | 1 |
| 福岡地所 | 1 | |
| 福岡市身体障害者福祉協会 | 1 | 1 |
| 富士通 | 3 | |
| ブリッジインターナショナル | 1 | |
| マツダ | 1 | |
| みずほ証券 | 1 | |
| みずほフィナンシャルグループ | 1 | |
| 三井情報 | 1 | 1 |
| 三菱 UFJ 信託銀行 | 1 | |
| 三菱ガス化学 | 1 | |
| 三菱電機 | 2 | 1 |
| 明治安田生命保険 | 1 | |
| メンバーズ | 1 | 1 |
| 山田コンサルティンググループ | 1 | |
| ユニクロ | 1 | |
| 楽天 | 1 | |
| 楽天カード | 1 | |
| 琉球銀行 | 1 | |
| 計 | 76 | 18 |

| 公 務 員 | | |
|-------------|---|---|
| 警察庁 | 1 | |
| 総務省 | 2 | 2 |
| 厚生労働省 | 1 | |
| 経済産業省 | 1 | 1 |
| 参議院事務局 | 1 | |
| 関東信越国税局 | 1 | |
| 九州経済産業局 | 1 | 1 |
| 九州財務局 | 1 | |
| 九州地方更生保護委員会 | 1 | |
| 九州防衛局 | 1 | 1 |
| 大阪出入国在留管理局 | 1 | |
| 福岡出入国在留管理局 | 2 | 1 |
| 福岡国税局 | 1 | 1 |

| | | |
|----------|----|----|
| 福岡労働局 | 1 | 1 |
| 福岡高等裁判所 | 2 | 1 |
| 福岡地方検察庁 | 2 | 1 |
| 福岡法務局 | 2 | 1 |
| 大分地方方法務局 | 1 | 1 |
| 愛知県 | 1 | |
| 大分県 | 3 | 1 |
| 沖縄県 | 1 | 1 |
| 神奈川県 | 1 | 1 |
| 佐賀県 | 2 | 2 |
| 島根県 | 1 | |
| 東京都 | 1 | 1 |
| 長崎県 | 4 | 2 |
| 福岡県 | 9 | 7 |
| 宮崎県 | 2 | 1 |
| 山口県 | 1 | 1 |
| 鹿児島県出水市 | 1 | |
| 熊本県宇城市 | 1 | |
| 佐賀県鳥栖市 | 1 | |
| 東京都世田谷区 | 1 | 1 |
| 長崎県佐世保市 | 1 | 1 |
| 福岡県北九州市 | 2 | 2 |
| 福岡県福岡市 | 5 | 4 |
| 宮崎県都城市 | 1 | |
| 山口県周南市 | 1 | |
| 福岡県志免町 | 1 | |
| 宮崎公立大学 | 1 | |
| 計 | 65 | 37 |

| 進 学 | | |
|----------------|-------|------|
| 九州大学法科大学院 | 16(5) | 7(1) |
| 九州大学法学院 | 7 | 3 |
| 東北大学公共政策大学院 | 1 | |
| 北海道大学法科大学院 | 1 | 1 |
| 大阪大学大学院高等司法研究科 | 3 | 1 |
| 筑波大学法科大学院 | 1 | |
| 立命館大学法科大学院 | 1 | 1 |
| 計 | 30 | 13 |

編集後記

今回の法学部ニュースの取材に応じて下さった先生方、学生の皆さんに感謝申し上げます。また、法学部広報の新たな取り組みとしてInstagramを始めました。ぜひご覧になってフォローして頂けると幸いです。(学生スタッフ一同)

記事の作成を担当していただいた学生スタッフ、そして何よりも早く取材に応じていただいた教員、学生の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。皆様のご協力のおかげで、本号の記事は質だけでなく量もこちらの予想を上回るものとなりました。いわゆる「続きは Web で」形式にすることも検討しましたが、最終的にはレイアウトを工夫することで全文の掲載をすることとなりました。いつも以上に読み応えがあるな、と感じていただければ幸いです。(教員スタッフ)

法学部ニュース

<http://www.law.kyushu-u.ac.jp/general/news/030/index.html>



法学部 Facebook

九州大学 法学部
(Kyushu University Law) | Facebook



法学部 Instagram

https://www.instagram.com/q_law_pr.st/

